

## 東日本大震災後のイルミネーションを考える

被災により亡くなられた御霊に対し、衷心より御悔み申し上げます。  
御遺族様には1日も早く心安らぐ日が来ることをお祈り申し上げます。

私は16年前の神戸大震災の際、妻の実家(神戸市東灘区)の住居(マンション)が全壊となり、一時、義理の両親と同居生活をおこなっておりました。当時の被災地の倒壊した家屋や町並みを思い出すと、今でも「悪い夢を見ていたのでは？」という不思議な気分になってしまいます。

神戸、淡路島の復興は、国や県、そして全国民の支援のもと予想以上に急ピッチで進みました。しかし、町や建造物の復旧、復興が進んでいく中で、家族や最愛の人を亡くした遺族の心の苦しみ、焦燥感などはいつまでも多くの人を苦しめてきました。そしてこれは、16年を過ぎた今も多くの方の心の中に消え去らない傷として残っています。それを考えますと、今回東北地方で被災された皆様方のこれからの精神的な苦痛は計り知れないものがあると思われまます。

しかし、今回の東日本大震災と神戸大震災が大きく違うところは、原発事故の処理問題とそれに伴う今後のエネルギー問題です。

### 直面したエネルギー問題の解決とイルミネーション施工

今回の東日本大震災は、震災後の日本そして世界に対し、原発のあり方、今後のエネルギー問題という重大な課題を投げかけました。原子力発電所の新規建設はもちろん、既存設備についても安全基準の見直しや存続をも議論される状況になってきております。特に現在、電力需要の高まる夏の省エネ対策について国民的な議論が行われています。

今回の大災害の以前の状況を振り返りますと、京都議定書、洞爺湖サミットなどの流れで、地球環境への配慮を標榜した、「ブラックイルミネーション」という、一定時間電気を消すことによってCO2を削減する運動なども行われました。今後は、これまでの地球環境の保全としての省エネに加え、原発依存を減らす(=消費電力の削減)国民の生活スタイルが再考される必要が出てきました。

イルミネーションは装飾であります。生活に絶対的に必要な電気であるとは言えません。しかし、これらはまったく無駄な電気消費でしょうか。

### 今、改めて考えるイルミネーションの効果

神戸震災の後、「被災した人々の魂に安らぎを…」との多くの皆さんの願いのもと、「ルミナリエ」のイルミネーションがスタートいたしました。被災し亡くなった方への鎮魂の意味から始まったイルミネーション・イベントが、集客効果の高い観光の目玉となり、大きな経済効果をもたらせました。そして神戸の復興に大きく貢献したことは記憶に新しいところです。

私はその後、ブライダル関係のクライアントさまから、「被災者復興市営住宅からよく見える位置に、象徴的なイルミネーションを創出してほしい…」との依頼を受け、当時、日本最大の常設樹木イルミネーションを施工させていただきました。そのことは、大きく報道され、多くの人たちから感謝と高い評価を頂くことができました。

それらの経験を経て、私は改めて明かりや灯（ともしび）で得ることのできる心の安らぎ、そしてイルミネーションが与えてくれる希望や勇気というものを強く確信いたしました。そして、生きていく力を与えてくれるような光の演出を心がけていかなければならないと自らに誓いました。

## 省エネを実行しながらメリハリのある光の演出空間を提案

日本の住宅は平均的に欧米より明るすぎるといわれています。夕刻からの暗がりを楽しむムードある時間として楽しむような光の演出を設計していく必要があります。また、企業においても、部署（シマ）ごとに電気のスイッチがついているような設計なども必要です。また観光地や店舗でも300Wのハロゲン投光器が無意味なところに設置され、照射方向もずれてしまっているものをよく見受けられます。これらを見直すだけ、相当数の省エネが実現されます。

我々が使用している、LEDイルミネーションは、平均的に100球で6Wです。すなわち、100Wの従来の裸電球（今だに使用しているところも多い）1灯で、LEDイルミネーション1600球分です。つまり、無駄な電球を撤去し、LED電球に入れ替えることで、相当華やかなイルミネーションを楽しんでいただくことができます。

### 提案1. 省エネした範囲以内でイルミネーションを設置

特に商業施設、観光施設においては、徹底した省エネを実行し、その範囲以内、できれば省エネした消費電力の半分以下で、新たなイルミネーションを設置し、さらに活気ある施設に変身するということを提案したいと思います。

特にイルミネーション周辺の無駄な照明を消すことで、メリハリができ、より一層新規設置したイルミネーションが、明るく華やかに見える視覚効果が高まります。

### 提案2. 規模だけを誇るイルミネーションってどうなの？

これまで多くの商業施設で「…何万球のLEDイルミネーション…」など規模だけを誇るような記載が多く見受けられました。これからはセンスとデザイン性、アイデアがより重視されるようになってほしいものです。また、消費者の見る目も試されているように思います。

### 提案3. 蓄光石の活用

紫外線を吸収して放電する蓄光石（蓄光発光セラミック）は、省エネかつ魅力的な光の演出を考えるうえで是非検討していただきたい素材です。演出の為には、ブラックライトが必要ですが、効果的なLEDスクエアUVライトを使用いただくと、広い光の空間が、わずかな消費電力で演出が可能です。またLEDイルミネーションと違い、蓄光石の発光機能は半永久的です。素材費用、メンテナンスフリーなどを考えれば、圧倒的な省エネタイプの光の演出といえます。

東北の復旧・復興為にも日本全体が活気ある国として、華やかでなければなりません。美しいイルミネーションが、日本国内の経済を活性化させ、海外からの訪日観光客やビジネスマンたちが多く訪れる国になり外貨獲得に繋がっていくと信じています。